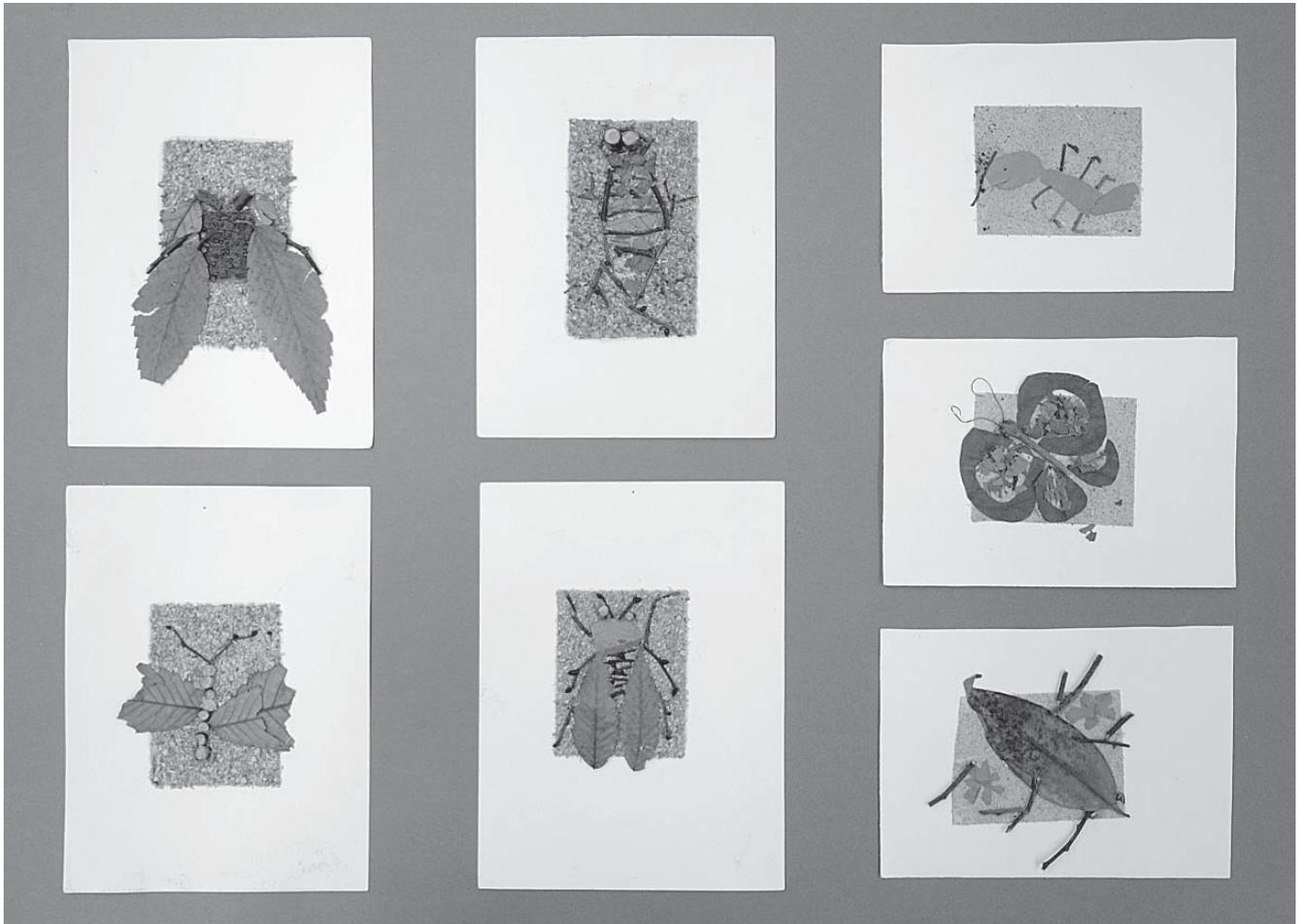


木と造形 「くっつけむし」

「素材との出会い展～木と造形」で考案したプログラムの一つです。木を使った造形活動というと、木箱や車などを作ったりする製材された木材を使った木工工作を思い浮かべます。しかし、製材される前の木や樹木、葉っぱなどに着眼すると、形、色、種類、季節の違いなど、さまざまな発見があります。〈自然〉の素材が持っているものを生かしたプログラムが「くっつけむし」です。



自然の色と形を生かす

〈木〉は、人間に愛着をもたれている自然の一つです。神話や児童文学などにも、いろいろな形であらわれます。それは、人間にとって身近であり、共生すべき最も親密なものだったからでしょう。子どもたちの遊びのなかにも、枝や木の葉が大切な役割を果たすこともあります。

「くっつけむし」は、小枝や木の葉、おがくずなどを用いて、自然の色と形、そして感触を生かしたプログラムです。幼児も大人も、十分に楽しめます。制作上、両面テープの接着力が重要な意味をもち、それが表現したいものを

形にすることを容易にしています。葉っぱや枝などの自然木を使う造形活動で使われる接着剤として、木工用ボンドやホットボンドなどがあげられます。前者は乾燥時間がかかり、後者は取り扱いが難しく、小さな子どもにはなじみません。

両面テープでも床用の接着力の強いものであれば、小さな子どもでも、はり絵や切り絵の感覚で簡単にいろいろな素材を組み合わせることができます。

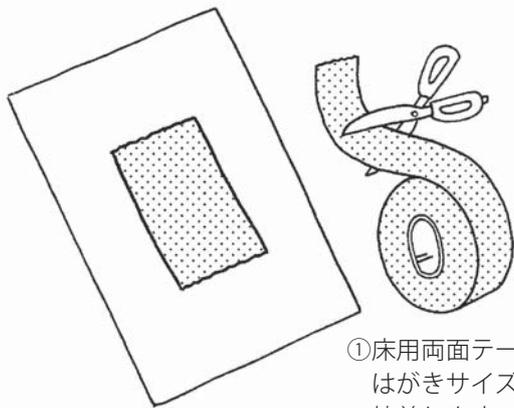
木のいろいろな部位によるコラーージュは、選んだ素材の差異で表情も異なり、その人の個性が表現されます。簡単に小さなものでありながら、自然を充分に感じさせる小宇宙的な作品ができます。

木は、人間と密接な共生関係にあります。物質面でも、精神面でも、木は私たちの生活を豊かにいろいろとくれます。食糧（木の実）、建築材料、家具調度品、燃料など、木から受けている恩恵は枚挙にいとまありません。

自然素材としての〈木〉を造形素材として、より身近に感じられるようにしたのが「素材との出会い展～木と造形」です。木の柔らかさ、硬さ、温かさ、柔軟性、手

触り、香りなどを総合的に体験できるように、間伐材を造形スタジオ内に設置。自然の里山を散策するのと同じような感覚で、子どもたちが木と接することができるようなアプローチにしました。

間伐材は、森林や街路樹などの成長過程で密集化する木立を間引くことで発生します。ちょっとした手間をかければ、無償で集めることができる造形素材となります。



□作り方□

①床用両面テープをはがきサイズのラシャ紙の中央に接着します。

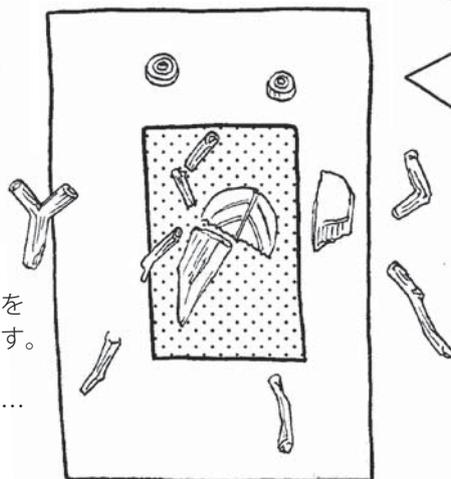


②両面テープの表面のシールをはがします。



イラスト：横須賀ヨシユキ

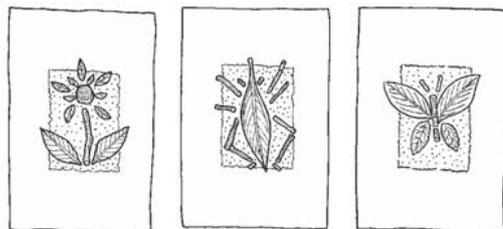
③はがしたシールの上で小枝、葉っぱ、木の実などをコラージュして虫を作ります。試しに置いてみて大まかな構成ができれば……



④両面テープの粘着面に小枝、葉っぱ、木の実などを移して固定します。



⑤でき上がって粘着面が残っているようならおがくずをふりかけて残った面を覆います。



※子どもたちと一緒に公園や森を散策しながら、素材となる木の葉などを集めてみるとよいでしょう。
 ※季節によって、同じ木や木の葉でも色は変化します。また陽の当たり具合によっても大きさや色が違います
 ※昆虫自体に、形態や模様を自然界の植物などに似せる“擬態”があるように、小枝などは虫の触角や足、樹皮や葉は胴体や羽などに似ています。今にも動き出しそうな、リアルさがあります。

□「くっつけむし」作りで使う道具□

- ①枝切りばさみ
- ②はさみ

□「くっつけ」の材料□

- ①床用両面テープ (5×7cmくらい、厚手)
- ②小枝、葉、木の実、おがくず
- ③ラシャ紙 (はがきサイズ、白)